

## 令和7年度 第1回島根県社会教育委員の会議（議事概要）

日時 令和7年7月1日（火）13:30-15:30

場所 サンラポーむらくも（八雲の間）

### 出席状況

#### ○委員（出席 10名）

安達委員、岩元委員、大地本委員、太田委員、大野委員、大橋委員  
小林委員、藤井委員、藤原委員、山崎委員

#### ○事務局（出席 10名）

野津教育長、京谷副教育長、横地社会教育課長、高塚課長補佐、橋津調整監、  
安井企画幹、大國企画幹、石橋社会教育主事、若槻社会教育主事、長崎主任

### 1 開 会

#### (1) 教育長挨拶

- ・島根県の社会教育は、全国でも先進的
- ・人口減少が進む中で、社会教育が重要な役割を担う。
- ・公民館等の機能充実と社会教育人材の養成・育成
- ・笑顔で暮らせる島根の実現に向けて、県民とともに取り組んでいく。

#### (2) 委員の異動 ※資料 P 2

（学校教育）山本 一穂 → 中西 和志  
（社会教育）大羽 ミヤ子 → 小林 恵子

#### (3) 出席者の自己紹介

### 2 議 事

#### (1) 社会教育関係団体に対する補助金 ※資料 P 8

（団 体）第 67 回中国・四国地区高等学校 P T A 連合会大会島根大会実行委員会  
（補助金額）500 千円

#### **質疑**

ア 補助金額は定額なのか、その都度団体からの要請で決めているのか。

→ 主催団体と相談をし、対象事業の収支に関わる場所を審査する。その中で補助金がなければ大会自体の開催が難しいことが見込まれる場合、状況を踏まえて金額を決定する。直近だと令和3年度に日本 P T A 中国ブロック研究大会島根大会があり、この場合も50万円であったことから、こういった先例も参考にして補助額を決定している。

→承認

(2) 社会教育課主要事業 ※冊子「令和7年度社会教育の方針と事業」参照

- ・ ふるさと教育推進事業
- ・ 結集！しまねの子育て協働プロジェクト
- ・ みんなでチャレンジ！しまねを創る人づくり支援事業
- ・ 社会教育士養成・育成事業
- ・ 社会教育主事派遣制度
- ・ 子ども読書活動推進事業

**質疑**

**ア** （感想として）ふるさと教育の理念で、「人のために頑張れる人を育てる」といった分かりやすいフレーズの方が良いと感じた。島根県の人が大事にしてきた理念であり、財産であり、子供たちが成長する1つのワードにしても良いと考える。

**イ** ふるさと教育は、基本的には小・中学校の教育現場でのことだと考えるが、高校は一体どうなのか。県立学校にどのように影響があるのか、現状を教えてほしい。

→ 令和5年度末に、高校3年生の進路に関わるアンケートを県で実施しており、その中の項目に、ふるさと教育に関すること、地域との関わりに関することについて調査をしている。その結果では、5年前の結果よりも、地域との関わりが自分の進路に関わっているといった肯定的な数値が高くなっていた。また、ふるさと教育についても、小・中学校での総合的な学習の時間を中心とした各教科において、ふるさとのひと・もの・ことを活用した学習、地域に出かけていって調べていく探求的な学びを実施していることが、高等学校での総合的な探求の学習に生きていると考えている。

ふるさとのひと・もの・ことを教材化することで、より学びが深まるといった視点で考えれば、高校での総合的な探究的な学習がより豊かなものになると考えている。

**ウ** 昨年度から始まった「しまねの社会教育人材認証登録制度」で、認証登録した14名はどのような属性の人が多いのか。

→ 「しまねの社会教育師」については、教育行政に携わっていた者が半数以上である。それ以外では、島根大学の社会教育主事講習を修了されて民間事業所で勤務の方、行政職員、大学生、公民館等の職員である。

「しまね社会教育サポーター」については、これまでの社会教育に関わっておられた方が圧倒的に多い。例えば、公民館等の職員、学校と地域をつなぐコーディネーターである。

エ 各事業の予算において、増えているところと減っているところがある。減っている理由は何か。次のステージに入ったということか。また、300ある社会教育を進める施設において、それぞれの施設がどの事業に重点をおいて取り組んでいるか、教えてほしい。

→ 予算の減額については、市町村への補助に係る事業であり、ご指摘のように、次のステージに入ったという見方もできる。

また、300ある施設のそれぞれの取組については、東部・西部社会教育研修センターが実施している「公民館等実態調査」で大まかな取組は把握できるが、今回その資料は用意していない。その調査も踏まえた事業報告についても検討したい。

(3) 意見交換 ※資料 P 9

(テーマ) ひらく つながる しまねの人づくり  
～しまねの社会教育人材の活躍を支え、広げるために～

・テーマ設定の理由 ※会議資料参照

・意見交換（グループ協議、全体共有）

**全体共有**

(Aグループ) 登録制度について、登録者の方から発信できるとよい。双方向で発信ができるとネットワークが拡大しやすい。また、登録することの楽しさやメリット、自身の良さがどのように生かせるのかといった情報を発信できるとよい。

多様な属性の登録者における、「〇〇×社会教育」の効果が見える化するとよい。

(Bグループ) 社会教育人材は多いが、その取組を社会教育として意識している方が少ないため、認証登録につながっていないのではないかと。登録した方々が楽しんで活動している姿があり、その楽しい姿を通して一緒にやってみようと思えるような働きかけがあるとよい。

人づくり大交流会について、さらに多様な属性の方の発表や、社会教育関係団体として日々取り組んでおられる団体など、多様な視点でそれぞれの取組を交流しながらつながりづくりができる場となるとよい。

(Cグループ) 認証登録制度について、チラシを渡して登録を依頼する方法だけでなく、自然とできる緩やかなつながりの中で登録認証につながっていくような流れができるとよい。そのためには、つながる機会を、楽しくわくわくしながらつながっていくような機会を、県を中心につくっていくことが大事。登録したことによって何か使命や制限があるかもしれないという漠然とした不安があるようだ。そのあたりが視覚的にわかるようなチラシや広報が必要だ。登録した人の承認の場、

登録した人が集い、一緒に活動する場などがあるとよい。

(会長) 社会教育がもっと広がり、いろいろな方に知ってもらいたいという思いがありつつ、なかなか伝わらなかったりする。しかし、分かりにくさとか伝わらなさも社会教育の一つの特徴であると思っている。あらかじめ目的とか方法とかを定めて取り組む活動ではなく、多様な地域、多様な関係者のつながりの中で、何か課題や目的が初めて見えてきて、適切な方法も見つかっていくといったところに“社会教育らしさ”もあると考えている。だからこそ、社会教育として多様な分野や多様な人となることができる。多様なつながりの中で何かよい方法が見つかったり、目的が生まれたりする。どんなところでも関わっていけるというのが社会教育の良さだと思っている。

今、島根県は全国の中でもかなり進んで、社会教育が開かれていて、多様な分野や属性と社会教育のコラボレーションが生まれている。そこをうまく発信できると良いと思う。この広がっている「社会教育×〇〇」の、“〇〇”側の分野や属性にとって社会教育のエッセンスがどんな意味をもたらしているのか、教育じゃない領域の専門性の現場の中で社会教育的なエッセンスが入ることによりどんな好影響をもたらしているのか、言語化し、発信されていくとよい。そして、「社会教育×〇〇」から起きるイノベーションが、地域のいろいろな課題の解決につながっていく、社会教育というエッセンスを使いながら地域課題の解決につなげる動きが広がっていくと良いと考える。

一方で、社会教育を、人口減少等の中で地域課題の解決に役立つ“安上がりなツール”だと思われては困るとも考えている。楽しむことや、学びを通して集い、つながるという要素は、大事にしていかなければいけない。地域課題の解決が強調される人口減少時代だからこそ、改めて社会教育の視点が大事になってきていると感じた。

### 3 閉 会

#### (1) 副教育長挨拶

- ・よく考えて、今できる一番良いことを実践していく。
- ・「積小為大」大きなことをなすには小さなことの積み重ねが大事。
- ・すぐに結果は出ないかもしれないが、今起こっている課題に対し知恵を出して解決していくことが、県政にとって大事にしていかなければいけないこと。
- ・社会教育というものの分かりにくさをどう県民の皆さんに伝えていくかが県としての課題。
- ・委員の皆様方からいただいたご意見を県政にしっかり反映していく。